

柴田町新図書館基本計画【概要版】

整備の目的

柴田町では、しばたの郷土館内に開設された現図書館がハード面で多くの課題を抱えていたため、新図書館の整備は長年の懸案事項となっていました。令和4年度に「都市再生整備計画」の中で、新図書館を核としたエリア帯の再整備事業が国に認められたのを契機に、船岡地区でのまちづくりの一環として、新図書館の整備を進め、船岡城址公園やしばたの郷土館との連携を図り、まち中に交流や賑わいをつくり出す拠点施設とすることを目指しています。

これまでの経緯

●令和5年度

公募によって選ばれた町民、学識経験者、図書館関係者等をメンバーとして組織された「新図書館建設検討委員会」を中心に、町民アンケート調査やプレイスデザインワークショップ、住民懇談会に参加いただいた方々の意見を踏まえ、「柴田町新図書館基本構想」（以下、「基本構想」という）を策定し、続いて「柴田町新図書館基本計画」（以下、「本計画」という）を策定するため、設計者選定プロポーザルを実施しました。

・賑わい交流プレイスデザインワークショップ（令和4年～継続）

・新図書館建設検討委員会（令和5年～継続）

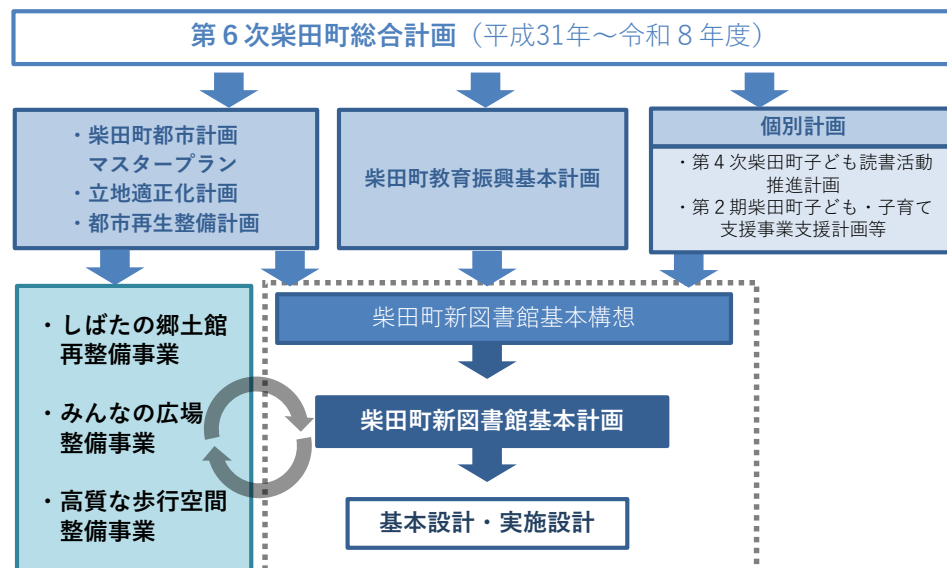
・柴田町新図書館基本構想策定に向けた町民アンケートの実施（令和5年7月）

・柴田町新図書館基本構想（案）に係るパブリックコメント（令和6年2月）

●令和6年度

選定された設計者が柴田町のパートナーとなり、柴田町建設検討委員会や町民ワークショップ等で出された意見等を盛り込み本計画を策定しました。

基本構想の位置づけ



施設サービスの基本的な考え方

基本構想で示した基本理念「出会う つながる 未来を創る」や、5つの基本方針を具現化するため、町民ワークショップでの町民との対話を通して得られた意見も参照しながら、施設の整備に必要なサービスの基本的な考え方を以下のように定めます。これらの取り組みを通じて、図書館として誰もが利用しやすく、また住民の交流・体験・活動の場としても機能するパブリックスペースとなり、しばたの郷土館や船岡城址公園を含めた整備計画エリア全体の結節点として、まちと繋がる図書館の建設を目指します。

1 誰にでも利用しやすく、心安らぐ居心地の良い図書館

- ・誰もが自分の好きな使い方で、いつでも利用しやすい居場所づくり
- ・図書館を普段利用しない人の来館のきっかけづくり
- ・誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した環境づくり

2 知る・学ぶ・究めるを支援する、基本サービスが充実した図書館

- ・蔵書数や貸出サービスの充実など、図書館の基本サービスの充実
- ・レファレンスサービスの充実による、住民の知りたい、学びたい気持ちのサポート
- ・デジタル化社会に対応した、DXによる多様な情報の提供

3 子どもたちの想像力や心の豊かさを育む図書館

- ・学校図書館と連携した中での、子どもたちの本を読む力と学ぶ力の育成
- ・乳幼児期からヤングアダルト世代までの、読書や学習活動の支援
- ・親子で利用しやすい環境づくり

4 自由に人が集まり、交流し、新たな賑わいを生み出す図書館

- ・自由に人が集まり、出会い、交流できるコミュニティづくりの場の提供
- ・本や情報を媒体にした、利用者同士の交流、連携ができる場の提供
- ・周辺施設と連携し、賑わいや交流を促す公共の場づくり

5 住民や地域の活動を支え、まちの未来を創る図書館

- ・地域の課題解決に向けた、生涯学習活動やまちづくり活動の支援
- ・「しばたの宝もの」を大切に守り、伝えていく活動の支援
- ・住民の参加と協働による、魅力的な図書館づくり

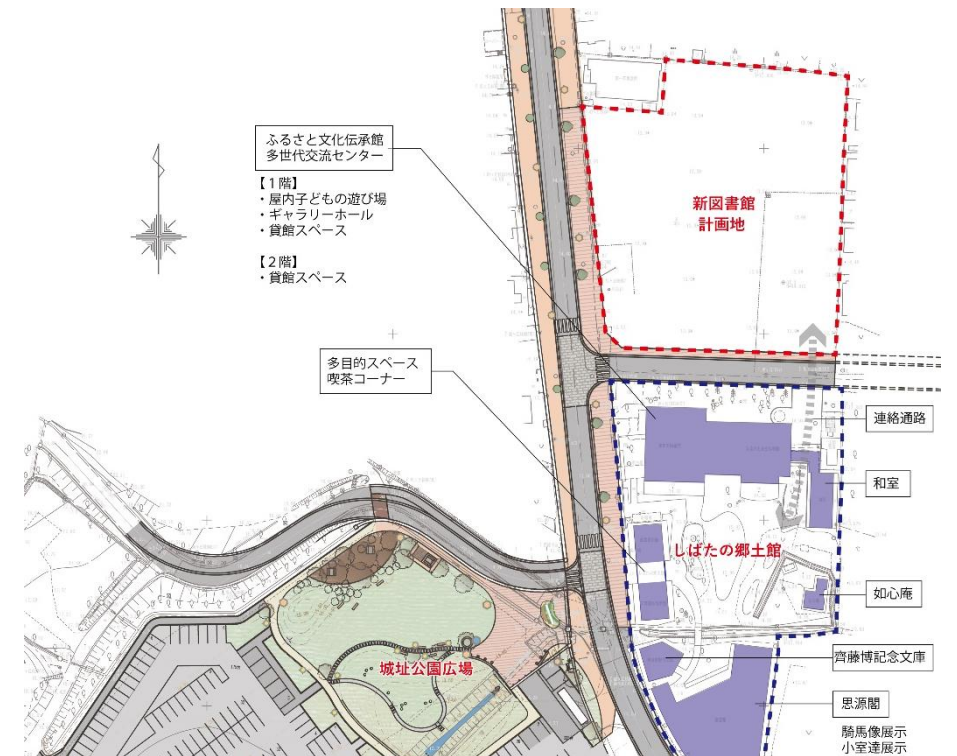
蔵書規模目標

蔵書規模については、想定される施設規模の中で最大限に充実したサービスが継続できるよう、収容可能冊数10万冊を目標とします。開館後は、利用者の使いやすさや、将来的なニーズへのフレキシブルな対応を可能とするため、書架のゆとり等を考慮しながら、計画的に蔵書の充実を図ります。

蔵書内訳については、一般書と児童書の比率は、現図書館の60%：40%程度を目安に検討していきます。児童書と絵本の比率は、50%：50%程度とし、また開架率については施設計画の中で許容される範囲内で、より多くの資料を開架エリアに配置するよう検討します。本計画の時点では、開架率を60%程度として設定します。

計画地概要

新図書館の計画地は、しばたの郷土館北側の現在の図書館駐車場となっている敷地です。計画地に隣接する周辺道路、敷地南西側に位置する現船岡城址公園駐車場及びしばたの郷土館駐車場は再整備（令和6～9年度に整備予定）が計画されており、また隣接するしばたの郷土館についてもリノベーション計画が予定されています。新図書館の設計においてはこれらの周辺計画との連携を視野に入れ、相互に計画内容のすり合わせを行います。



施設規模

延床面積は、建設工事に係る予算及び近年の同規模・類似図書館の工事単価を踏まえ、約1,500㎡程度とします。また、バリアフリーや管理運営の観点において、誰にでも使いやすく、屋外空間とのつながりもつくりやすい平屋建てとします。

主な機能

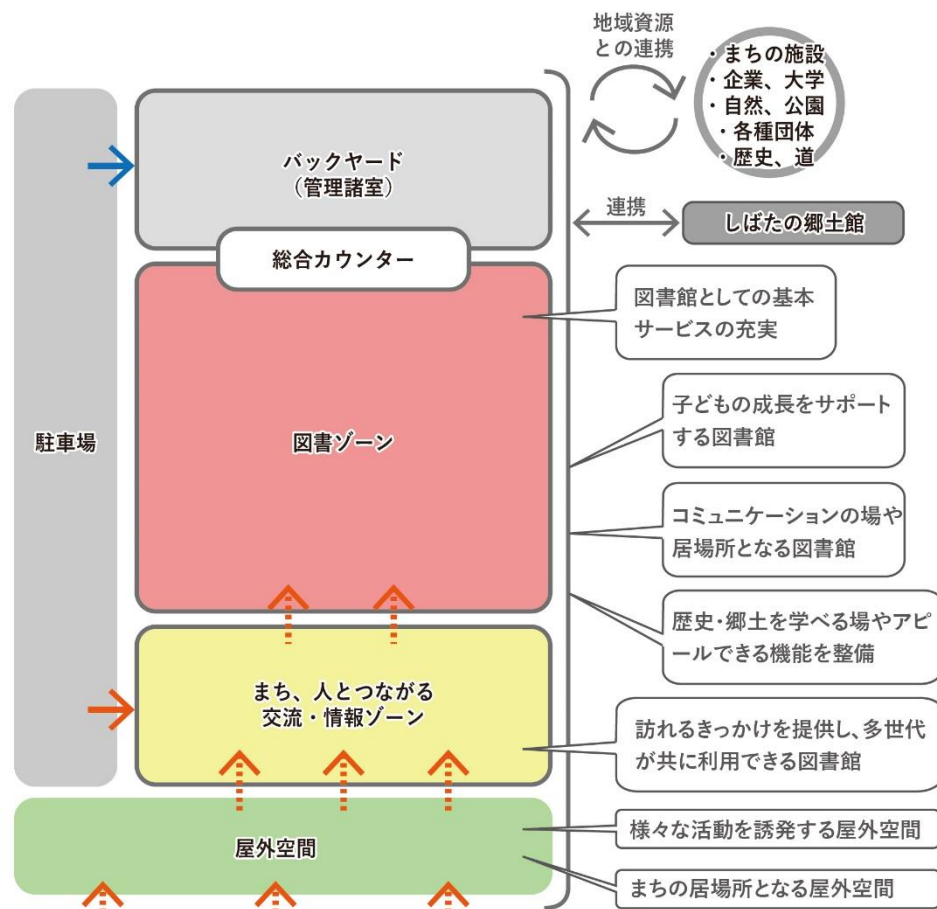
- 一般書エリア・・・
一般開架/ヤングアダルト（YA）開架/郷土資料コーナー/新聞・雑誌コーナー/閲覧スペース/学習室/研修室/対面朗読室/予約本コーナー 等
- 児童書エリア・・・
児童開架・閲覧スペース/読み聞かせコーナー/調べ学習スペース/子育て情報コーナー/児童用トイレ/授乳室 等
- 情報・交流エリア・・・
エントランスホール/情報コーナー/ギャラリースペース 等
- 管理エリア・・・
事務室/作業スペース/会議室/休憩室/更衣室/閉架書庫 等

柴田町新図書館基本計画【概要版】

施設の構成イメージ

基本構想で示された基本方針や施設サービスの基本的な考え方を
実現する「施設の構成イメージ」を以下に示します。

- (1) 「まち・人とつながる交流・情報ゾーン」を整備し、様々な活動を誘発し、施設を訪れるきっかけや、コミュニケーション・交流の場としての可能性を広げます。
- (2) 「まち・人とつながる交流・情報ゾーン」と連続する形で基本サービスの充実した「図書ゾーン」を整備します。
- (3) 施設全体としては、本を通じて、子どもの成長をサポートする役割や、町の歴史・郷土を学び、アピールする役割、まちづくり活動等を支援する役割を担います。

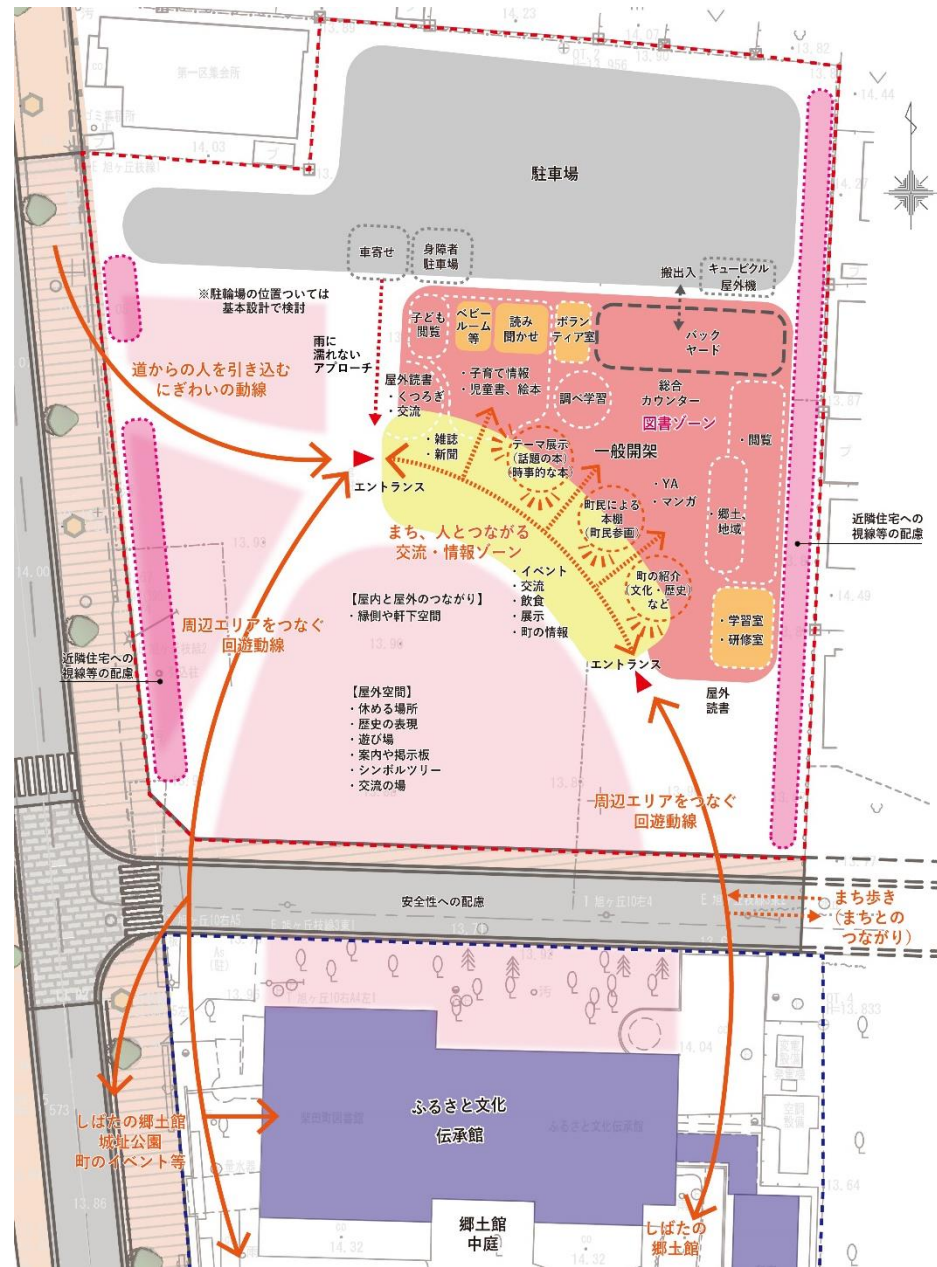


敷地利用計画

- ①**建物配置の考え方**：周辺の人の流れや、しばたの郷土館とのつながり、整備予定の敷地西側の前面道路との関係性を考慮して、屋外で活動できる空間を設け、建物は道路から余裕を持ってセットバックした配置とします。
- ②**駐車場配置の考え方**：新図書館へ車で来館する場合は、北側の県道からアクセスする利用者が多いと想定し、敷地の北側に駐車場を配置します。日常的な図書館利用者数が増加することや必要な職員数を考慮して、台数は合計で50台程度を確保します。
- ③**動線の考え方**：新図書館としばたの郷土館の連携が図りやすいように、両敷地をつなぐ回遊動線を設けます。この回遊動線は、新たに整備される船岡城址公園広場や柴田町内のまち歩きルートともつながる形で整備します。

ゾーニング計画

基本構想で示された内容、敷地利用計画、施設の構成イメージ、ワークショップや新図書館建設検討委員会等で出された意見を踏まえ、施設内のゾーニングを以下のように整理しました。



※各ゾーンの領域は、それぞれのゾーンの面積を反映したものではありません。

概算事業費

都市再生整備計画では事業費は13.5億円と定められており、これには設計監理料、工事費（建物・外構・書架棚）が含まれています（その他の図書館システムを含めた什器備品は別途）。

しかしながら、昨今の物価上昇の影響により、前記の規模を満たすためには事業費の増額は避けられないと考えています。今後都市再生整備計画を見直し、国に対し事業費の増額が認められるよう協議していきます。

整備スケジュール

新図書館整備においては、令和6年度に基本設計、令和7年度中に実施設計を完了し、令和8年2月から令和9年7月にかけて建設工事を行う予定で進めます。

また図書館建設に向けては、都市再生整備計画及び都市構造再編集中事業に基づき、他のしばたの郷土館再整備事業、みんなの広場整備事業、高質な歩行空間整備事業との関係性を調整した中で、計画を推進していきます。

	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度
新図書館		基本計画 基本設計 実施設計 申請 入札・契約 建設工事 運営方針の検討・町民団体や協力組織等との事前調整			開館準備 図書館移転作業 プレオープン	グランドオープン R10年4月（予定）
しばたの郷土館		実施設計		改修工事		
道路・公園整備		公園整備 周辺道路整備			周辺道路整備	